

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 1	使命・目的等
基準項目 1-1	使命・目的及び教育目的の設定

担当部局（委員会等）	学長室（学長室会議）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B : 満たしている／ 〃 : 計画進行中

C : 満たしている／ 〃 : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
1-1-④	変化への対応	A	—
	a. 社会情勢などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育目的の見直しなどを行っているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
1-1-④	a	特になし

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
1-1-④	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-1-④	a	令和5年度第1回協議会議事録（R5. 4. 17）第2回協議会議事録（R5. 5. 8）

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-1-④	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 1	使命・目的等
基準項目 1-2	使命・目的及び教育目的の反映

担当部局（委員会等）	学長室（学長室会議）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B: 満たしている／ 〃 : 計画進行中

C: 満たしている／ 〃 : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評 価 の 視 点 （ 上 段 ）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
1-2-④	三つのポリシーへの反映	A	—
	a. 使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映しているか。		
1-2-⑤	教育研究組織の構成との整合性	A	—
	a. 使命・目的及び教育目的を達成するために必要な学部・学科等の教育研究組織が整備しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
1-2-④	a	特になし
1-2-⑤	a	特になし

＜2025年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
1-2-④	a	
1-2-⑤	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-2-④	a	令和5年度第1回協議会議事録（R5. 4. 17）第2回協議会議事録（R5. 5. 8）
1-2-⑤	a	令和5年度第10回内部質保証推進委員会議事録「教育課程の適切性に係る自己点検評価」 「入学試験の妥当性の検証」（R6. 3. 11）、大阪大谷大学ディプロマ・サプリメント

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
1-2-④	a	
1-2-⑤	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-1	学生の受入れ

担当部局（委員会等）	入試・広報室（入試広報委員会）
------------	-----------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／　　　　　〃　　　　　：計画進行中

C : 満たしている／ 〃 : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
2-1-①	教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知	A	—
	a. 教育目的を踏まえ、アドミッション・ポリシーを定め、周知しているか。		
2-1-②	アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証	A	—
	a. アドミッション・ポリシーに沿って、入学者選抜などを公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用し、その検証を行っているか。		
2-1-③	入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持	D	—
	a. 教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。		

2 自己点検・評価

＜2024年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-1-①	a	アドミッション・ポリシーを各学科において策定し、「入試ガイド」「入学試験要項」、ホームページにおいて明示している。
2-1-②	a	入学者選抜の妥当性について、各学科で検証した。加えて、外部の有識者に検証内容について意見交換を行った。
2-1-③	a	2024年度入試は、1学科を除き入学定員を充足しなかった。そのため、2025年度入試から入学定員を削減し、オープンキャンパスの実施回数、企画内容の見直しを行い、志願者増の取り組みを図る予定である。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-1-①	a	
2-1-②	a	
2-1-③	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-1-①	a	「2024年度入試ガイド」「2024年度入学試験要項」
2-1-②	a	入試広報委員会議事録（R5. 7. 24）
2-1-③	a	入試広報委員会議事録（R5. 10. 11）

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-1-①	a	
2-1-②	a	
2-1-③	a	

Ⅱ. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月)

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-2	学修支援

担当部局（委員会等）	教育・学修支援センター（センター運営委員会）
------------	------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

- A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済
- B：満たしている／〃：計画進行中
- C：満たしている／〃：計画検討中
- D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
2-2-①	教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備	A	—
	a. 教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。		

2 自己点検・評価
<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
2-2-①	a	IR活動については協議会にて審議・決定がなされた活動方針案に従い、活動が行われている。 学生への調査については、その結果が協議会・学科会議等にて報告がなされるとともに学生への個別支援にも活用され、適切にフィードバックされている。 施設面では、新たに成和館2Fにラーニングコモンズを整備しICT関連の整備も行なっている。 一方、ソフト面では、令和5年度より薬学部のSA制度をベースに全学的な規程を整備した。この制度に基づき、令和6年度初のデジタルキャンパススタートアップセッションや初年次の情報処理教育科目においてSAを配置すべく、令和5年度末にSAの募集および研修を行った。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
2-2-①	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-2-①	a	協議会議事録（2024/3/4） 協議会議事録（2024/1/4）、「大阪大谷大学スチューデント・アシスタント規程」 「2024年度スチューデント・アシスタント(SA)募集」ポスター（教授会2024/1/24資料）

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-2-①	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-2	学修支援

担当部局（委員会等）	英語教育センター（センター運営会議）
------------	--------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／ 〃 ：計画進行中

C : 満たしている／ 〃 : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度 自己評価	2025年度 自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
2-2-①	教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備	A	—
	a. 教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-①	a	ACEが行っている英語カリキュラムなどの教務事項と学修支援等すべての事業は、ACEスタッフ（事務職員2名）とACE運営委員（センター長と学長指名の各学科からの委員）が協働して行ってきた。特に2023年度は、Native English Speakerのセンター特任講師が着任し、ACEレッスンなどのプログラムの充実を図ることができた。また、導入したVirtual Live Trainingについても、学生の利用が進んでいる。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-①	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-2-①	a	ACE Review 2023 英語教育センター運営会議議事録と会議資料（2023年度開催分と2024年4月開催分）

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-2-①	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-2	学修支援

担当部局（委員会等）	教務部（教務委員会）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

- A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済
B：満たしている／〃：計画進行中
C：満たしている／〃：計画検討中
D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
2-2-②	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実	A	—
	a. 教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。		
	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実	A	—
	b. オフィスアワー制度を全学的に実施しているか。		
	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実	A	—
d. 中途退学、休学及び留年などへの対応策を行っているか。			

2 自己点検・評価
<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-②	a	2024年度からスチューデント・アシスタント制度を薬学部のみから全学部に拡大し、「新入生セミナー」「コンピュータ技術基礎Ⅰ」（いずれも全学科）「スポーツ方法（トレーニング）」（スポーツ健康学科）でSAによる教員の教育活動の支援を実施している。スチューデント・アシスタントの養成を含めて教育活動の支援をさらに充実させる。
	b	特になし
	d	特になし

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-2-②	a	
	b	
	d	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-2-②	a	・大阪大谷大学スチューデント・アシスタント規程
	b	・大学ホームページ「オフィス・アワーについて」
	c	・大学ホームページ「アドバイザー制度について」
	d	・2024年度履修の手引き ・令和5年度長欠調査依頼文(前期・後期) ・令和5年度教務委員会議事録 (R5/4/12) -GPA1.5未満対象者- ・令和6年度教務委員会議事録 (R6/4/10) -GPA1.5未満対象者-

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-2-②	a	
	b	
	d	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-2	学修支援

担当部局（委員会等）	障がい学生支援室（障がい学生支援委員会）
------------	----------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

- A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済
- B：満たしている／〃：計画進行中
- C：満たしている／〃：計画検討中
- D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評 価 の 視 点 （ 上 段 ）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
2-2-②	TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実 c. 障がいのある学生への配慮を行っているか。	A	—

2 自己点検・評価
<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
2-2-②	c	合理的配慮の必要な学生においては、相談に応じて個別に面談を実施し、支援部会にて合理的配慮の検討を行っている。入学前時期の支援体制においては、オープンキャンパスでの修学相談、「大学生生活支援カード」の提出、入学前相談を実施している。サポート学生の情報保障支援活動においては、音声認識ソフトUDトークを用いた情報保障活動、授業動画への字幕挿入、語学科目での手書きノートテイクを実施している。聴覚障がい学生の増加を受け、今後も利用希望に応じた支援対応が出来るように、サポート学生の支援技術向上のための研修機会を拡充し、支援形態の幅を広げることを検討している。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
2-2-②	c	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-2-②	c	相談学生数一覧（令和5（2023）年度・令和6（2024）年度4月） 障がい学生のための支援機器一覧（令和6（2024）年度 5月1日 時点） 情報保障対応件数（令和 6（2024）年度前期対応分 5月1日 時点）

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-2-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-3	キャリア支援

担当部局（委員会等）	キャリアセンター（キャリア委員会）
------------	-------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

- A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済
B：満たしている／〃：計画進行中
C：満たしている／〃：計画検討中
D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評 価 の 視 点 （ 上 段 ）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
2-3-①	教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備	A	—
	a. インターンシップなどを含め、キャリア教育のための支援体制を整備しているか。		
	教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備	A	—
	b. 就職・進学に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。		

2 自己点検・評価
<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
2-3-①	a	・今年度から「キャリア概論」を1年生配当の必修科目として開講 ・今年度から2年生配当の「キャリア形成Ⅱ」を「インターンシップ入門」へ科目名を変更し、内容もインターンシップ採用直結化に対応したものに變更し開講
	b	・「就職未決定者の早期の把握・個別指導」を行うため、昨年8月から「Forms」を利用したアンケート調査を実施。その解答を促す依頼を大学全教職員に依頼した。 ・今年度のキャリア支援行事については、対象学年のゼミの時間と重ならないよう、全て1限目もしくは5限目に設定している。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
2-3-①	a	
	b	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-3-①	a	「キャリア概論」シラバス 「インターンシップ入門」シラバス
	b	[重要]卒年生就職状況Web調査のご協力のお願い_20230802 令和5年度第5回キャリア委員会議事録(R5. 09. 13) 2024年度キャリア支援行事年間スケジュール表

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-3-①	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-3	キャリア支援

担当部局（委員会等）	教職教育センター（センター運営会議）
------------	--------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B: 満たしている／ 〃 : 計画進行中

C : 満たしている／ 〃 : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
2-3-①	教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備	A	—
	a. インターンシップなどを含め、キャリア教育のための支援体制を整備しているか。		
	教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備	A	—
	b. 就職・進学に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。		

2 自己点検・評価

＜2024年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-3-①	a	実践力の向上を目的とした行事や教職関連のキャリア教育科目では 1 年次対象の「教職入門（正課外）」に参加するにあたり、事前オリエンテーションで学校現場において教員の視点で児童・生徒の様子を知り、教える側の視点を養うことを目標とするよう指導している。2 年次以降では「教育インターンシップⅠ・Ⅱ（正課）」や「学校支援学生ボランティア（正課外）」等の活動を通じて、学生が教員に求められる資質・能力を自覚し、教育実習へ繋げられるような体制を整えている。 知識・教養を向上させるための講座やキャリア教育科目では、教員採用試験合格者の増化を目指し、教員採用試験の早期化対策も含め、1年次早期から学習習慣の定着や基礎学力の向上に取り組める体制となっている。
	b	教職教育センターでは、教職アドバイザー（2 人の校長・教育行政経験教員）が教職教育センターに常駐し、教職教育センター長はもとより教職支援課職員（6人）と連携し学生・保護者及び卒業生からの相談・助言に迅速な対応をしている。また教職教育センター教職員全員が、ゼミ担当教員及び学部・学科、関連委員会や部署と連携することで、学生の進路の再考の相談を含め、包括的に支援・指導している。

＜2025年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-3-①	a	
	b	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-3-①	a	2024年度教職教育センターハンドブック(抜粋)
	b	2-3-①aと同様

<2025年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-3-①	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-6	学生の意見・要望への対応

担当部局（委員会等）	教育・学修支援センター（センター運営委員会）
------------	------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／ 〃 ：計画進行中

C : 満たしている／ 〃 : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
2-6-①	学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用	A	—
	a. 学生への学修支援に関する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学修支援の体制改善に反映しているか。		

2 自己点検・評価

＜2024年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-6-①	a	IR活動における基幹3調査(入学生調査、学修行動調査、卒業時調査)において、学生の志向や学修実態、大学への期待や不安なども調査し、その結果は協議会や学科会議等に報告され、教育や学修支援体制の改善に役立てられるとともに、学生への個別学修指導や支援に活用され、適切にフィードバックされている。

＜2025年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
2-6-①	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-6-①	a	協議会議事録(2023/6/5) 協議会議事録(2023/8/28)

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-6-①	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 2	学生
基準項目 2-6	学生の意見・要望への対応

担当部局（委員会等）	教務部（教務委員会）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
2-6-①	学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用	A	—
	a. 学生への学修支援に関する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学修支援の体制改善に反映しているか。		
			—
			—

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
2-6-①	a	「学生代表者会議」「学生教育改善会議」を開催し、学修に対する学生からの意見をくみ上げ、そこで出された意見にもとづき、授業方法の改善、学習環境の整備等にとりくんでいる。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
2-6-①	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-6-①	a	・ R5学生教育改善会議実施要項

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
2-6-①	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-1	単位認定、卒業認定、修了認定

担当部局（委員会等）	教務部（教務委員会）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
3-1-①	教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知	A	—
	a. 教育目的を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを定め、周知しているか。		
3-1-②	ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知	A	—
	a. ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を適切に定め、周知の上、厳正に適用しているか。		
3-1-③	単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用	A	—
	a. ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を適切に定め、周知の上、厳正に適用しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-1-①	a	特になし
3-1-②	a	特になし
3-1-③	a	特になし

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-1-①	a	
3-1-②	a	
3-1-③	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-1-①	a	・大学ホームページ「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」 ・各学科発行「学習マニュアル」「履修マニュアル」
3-1-②	a	・文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程 ・薬学部授業科目履修規程 ・2024年度履修の手引き
3-1-③	a	・薬学部教授会議事録（R6/02/09）卒業判定 ・文学部・教育学部・人間社会学部教授会議事録（R6/02/21）卒業判定 ・文学部・教育学部・人間社会学部教授会議事録（R6/02/28）進級判定 ・薬学部教授会議事録（R6/02/28）1～3年生進級判定 ・薬学部教授会議事録（R6/03/06）4～5年生進級判定・退学勧告ほか ・文学部・教育学部・人間社会学部教授会議事録（R6/03/06）退学勧告ほか

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-1-①	a	
3-1-②	a	
3-1-③	a	

Ⅱ. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	教務部（教務委員会）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-2-①	カリキュラム・ポリシーの策定と周知	A	—
	a. 教育目的を踏まえ、カリキュラム・ポリシーを定め、周知しているか。		
3-2-②	カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性	A	—
	a. カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保しているか。		
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	a. カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	b. シラバスを適切に整備しているか。		
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
c. 履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか。			
3-2-④	教養教育の実施	A	—
	a. 教養教育を適切に実施しているか。		
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	a. アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	b. 教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

2 自己点検・評価
＜2024年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、 事実説明及び 次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-①	a	特になし
3-2-②	a	特になし
3-2-③	a	特になし
	b	非常勤講師のシラバスはこれまで通り各学科の教務委員が確認し、専任教員のシラバスは、シラバスFDとして、学科ごとに教員が互いに確認を行っている。この方法により、カリキュラムマップやツリーに即したシラバス内容になっているかの検証を全教員で行うことができています。
	c	特になし
3-2-④	a	「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができるよう、共通教育科目選択科目であった「いのちを共に考える」1単位を全学部で必修科目とした。
3-2-⑤	a	特になし
	b	特になし

＜2025年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、 事実説明及び 次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-①	a	
3-2-②	a	
3-2-③	a	
	b	
	c	
3-2-④	a	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-①	a	・大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー」
3-2-②	a	・3つのポリシー一覧
3-2-③	a	・教務委員会議事録(R5/7/12)
	b	・シラバスFD開催案内、2023年度シラバスFD当日資料、
	c	・2024年度履修の手引き
3-2-④	a	・2024年度 学則(別表) ・2024年度 文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程 ・2024年度 薬学部授業科目履修規程
3-2-⑤	a	・令和元年度教育改革推進プロジェクト事業報告会 (R3/02/17) ・令和2年度教育改革推進プロジェクト事業報告会 (R4/02/02) ・令和3年度教育改革推進プロジェクト事業報告会 (R5/03/08) ・令和4年度教育改革推進プロジェクト事業報告会 (R6/03/13)
	b	・大学のWebポータルサイト「Active Academy」「学生による授業評価および施設に関する改善報告」 ・大阪大谷大学・大阪大谷大学大学院FD報告書 2020年度・2021年度 ・2021年度授業公開報告 ・2022年度授業公開報告 ・2023年度授業公開報告

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-①	a	
3-2-②	a	
3-2-③	a	
	b	
	c	
3-2-④	a	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	文学部自己点検・評価委員会（日本語日本文学科）
------------	-------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	a.カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	c.履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか。		
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

2 自己点検・評価 <2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	特になし
	c	昨年度から、2年次「基礎ゼミナールⅡ」3年次「ゼミナールⅠ」では、GPAの値によって志望ゼミの選択の優先順を決めている。また、3年次「特殊講義」は専門性が強い高度な科目であるため、GPA1.5未満の学生は受講できないこととした。
3-2-⑤	a	「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」は当然として、ほか、「講読」系の講義などにおいてもアクティブラーニングを取り入れることを推奨している。
	b	アクティブラーニングに関する各教員の取り組みを学科内で共有することを学科内委員会で検討した。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	日本語日本文学科学習マニュアル
	c	日本語日本文学科学習マニュアル
3-2-⑤	a	日本語日本文学科シラバス「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」
	b	アクティブラーニング検討委員会議事録 (R6/02/28)

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

Ⅱ. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	文学部自己点検・評価委員会（歴史文化学科）
------------	-----------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

- A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済
B：満たしている／〃：計画進行中
C：満たしている／〃：計画検討中
D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	a.カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	c.履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか。		
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

2 自己点検・評価
<2024年度>

No.	留意点	
		事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	令和 2（2020）年度より、歴史学、美術史学、考古学の「基幹コース」と、博物館・美術館、社会科教育、歴史観光の「選択コース」からなる 6 コース制を敷いていたが、令和6（2024）年度からは「基幹コース」を日本史学、文化史学、日本美術史学、西洋美術史学、考古学の 5 コースに開き、学生各々の関心にきめ細かく応える編成とした（「選択コース」は変更なし）。あわせて、「基礎ゼミ 1」「歴史学入門」「美術史学入門」「考古学入門」から始まり、卒業年次における「ゼミナール 2」「卒業論文」に至るまで段階的かつ体系的なカリキュラムを設定し、歴史文化学の基礎知識および専門的知識・技能を学ぶ場を提供している。
	c	令和元（2019）年度より、GPAの数値が3.2以上の学生に対して上限単位数が緩和された。令和5（2023）年度においては1回生7名（16.3%）、2回生5名（10.2%）、3回生9名（17.0%）、4回生11名（18.6%）の学生が対象となった（回生は令和5（2023）年度時点、割合は当該年次の学科総数に対して）。3年次配当の「ゼミナール1A・1B」と、4年次配当の「ゼミナール2A・2B」は、歴史文化学の基礎知識を修得した上で、自らの研究課題を見出し、その解決に必要な情報（史資料）を取捨選択し、それらを論理的に分析・思考する能力（問題解決能力）を必要とする科目である。そのため、「ゼミナール」科目の履修には、共通教育科目および専門教育科目のうち52単位を修得していることを必須としている。また、3年次配当の「歴史学特殊講義 A・B」「美術史学特殊講義 A・B」「考古学特殊講義A・B」には高い専門性が求められるため、これらの科目を履修するには、前年度終了時の累積 GPAが1.0以上であることを要件としている。さらに、令和3（2021）年度からは、GPAを判断基準とする進級判定制度が導入された。2年次から3年次への進級に際して、累積 GPAが0.67未満であり、かつ、「基幹コース」の入門科目の全ての単位を修得していない場合は留年と判定している。以上の工夫により、段階をふまえた学びの実質を保っている。

3-2-⑤	a	「基礎ゼミ1A・1B」や「基礎ゼミ2A・2B」等の授業では、文献の探索、配布資料作成、発表と質疑応答の方法を教授することで、調査力、プレゼンテーション力、コミュニケーション能力が身につくように指導している。3・4年次に履修する「ゼミナール1A・1B」や「ゼミナール2A・2B」では、卒業論文の準備を通して、上記の能力に加え、問題解決能力の育成にも力を注いでいる。複数のゼミナールが合同で卒業論文の中間発表会を行うこともあり、ゼミナールの枠を超えて学生同士が学問的刺激を共有する機会を提供している。
	b	令和2（2020）年度より、日本語日本文学科と合同で行う文学部FD委員会と、歴史文化学科の初年次教育検討委員会を設置した。文学部FD委員会では、令和5（2023）年9月13日（水）に研修会「コロナ禍を経た学生支援について」を開催し、文学部教員間で教授方法の改善にむけた議論を行った。歴史文化学科の初年次教育検討委員会では、「フレッシュャーズ・ミーティング」「基礎ゼミ1」等、初年次配当科目に関する検討を行った。また、共通教材として「歴史文化フィールドワークA・B」の配布資料を制作した。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料

<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	- 大学ホームページ「（歴史文化学科）カリキュラム」 - 歴史文化学科カリキュラムマップ - 歴史文化学科カリキュラムツリー - 歴史文化学科学習マニュアル
	c	2024年度 文学部教授会 資料（R6/04/17）（2023年度累積GPA3.2以上該当者数） - 歴史文化学科学習マニュアル
3-2-⑤	a	歴史文化学科シラバス「基礎ゼミ1A」「基礎ゼミ1B」「ゼミナール1B」「ゼミナール2A」
	b	2024年度文学部FD研修会開催の案内 2023年度 歴史文化学科初年次教育検討委員会 会議録（R6/02/07～R6/02/10） 「歴史文化フィールドワーク」共通教材

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

Ⅱ. 学長からの改善要求

学長からの改善要求	

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画	
* 検討内容、実行時期を記述する。	
検討内容：	
実行開始： 年 月	

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	教育学部自己点検・評価委員会
------------	----------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評 価 の 視 点 （ 上 段 ）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	a.カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	B	—
	c.履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか。		
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	C	—
	b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

2 自己点検・評価 <2024年度>

No.	点 留 意	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	特になし
	c	資格・免許取得のためCAP制度よりも履修科目数が多い。共通教育科目と専門教育科目の卒業に必要な単位数を検討し、2024年度入学生から専門教育科目の単位数、専門選択科目について見直しを行った。2025年度入学生から入学制度を変更するため、カリキュラムの再検討を行っている。
3-2-⑤	a	特になし
	b	従来から各専攻会議等において、授業での困りごとやどのような工夫をしているか、気になる学生の情報等を共有し、公開授業制度を活用して授業の工夫や改善に努めてきた。各教員の教授方法の改善に向けて、教育学部FD研修会にて教育方法や学生指導の工夫等を紹介し合う場を設けるなど、実施方法を検討する。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	・2024年初等中等教育専攻・特別支援教育専攻学習マニュアル ・2024年こども保育専攻ナビゲーション
	c	・2024年度各専攻カリキュラム表 ・2024年度各専攻カリキュラムマップ ・2024年度各専攻カリキュラムツリー
3-2-⑤	a	・アクティブ・ラーニング実施科目のシラバス例（特別支援教育指導法演習Ⅰ）
	b	・2023年度公開授業日程

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

Ⅱ. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	人間社会学部自己点検・評価委員会（人間社会学科）
------------	--------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度 自己評価	2025年度 自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	a.カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	c.履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか。		
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	B	—
	a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	人間社会学科では、これまでの成果および社会の動向把握の結果にもとづき、2024年度入学生から、経営学、データサイエンス、現代社会学という学問領域を軸とする3コース制へと教育プログラムを変更し、その際、カリキュラム・ポリシーの見直しおよびそのポリシーに沿った体系的確認を行なった。 具体的に、とくに専門教育に関しては、まず「人と社会」に関する基盤を形成する科目、すなわち、「人間と社会A・B」や上述3学問領域の概論3科目、高校から大学における学びへの円滑な移行を支援する「基礎ゼミナールⅠ」を1年次に必修科目として配置している。少人数単位で開講しているゼミナールは、「基礎ゼミⅠ」と同様、「基礎ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」を必修とし、年次進行にしたがって専門分野の知識・スキルを高めるようにしている。また、4年間の学びを総括する「卒業研究」を同じく必修科目として開講している。 「選択科目」としては、①専攻するコースの専門知識を深め、関連する資格や免許の取得をめざす「コース選択科目」と、②コースを越えて多角的な知識の獲得をめざす、6つの科目群やプログラムに整理された、その他の選択科目を設け、学年があがるにつれて専門性を高めるようにしている。 さらに、人間社会学科のカリキュラムに特徴的なものとして、3-2-⑤ a でも詳述するように、1年次に必修科目として「PBL入門」を配置し、また、3年次には、それまでに学んだ知識・スキルを活用して具体的な課題解決にチームで取り組む実践演習系科目を選択科目としていずれのコースにも設置し、より高い問題解決能力や実践力を身に付けられるようにしている。

	c	人間社会学科では、全学的な方針にしたがって、過剰な履修登録の防止、履修登録した科目のために必要な学修時間の確保を目的としたCAP制を採用している。具体的には、年間48単位を上限として履修登録するようになっており、また、GPAが3.2以上の学生を対象としてCAP上限を56単位まで緩和するようにしている。さらに、こうしたCAP制の趣旨に関する学生の理解を促すため、人間社会学科では、履修マニュアルで説明をしているほか、新入生向け教務オリエンテーションにおいても説明している。 一方、学生による授業評価の結果によると、人間社会学科学生の自習時間は大学平均を下回ることがある。これへの対応としては、授業のアクティブ・ラーニング化等をつうじて学生の主体性醸成をさらに図っていくことが重要である。同時に、そもそも高等教育の単位制を支える基本的な考え方（1単位取得には45時間の学修を要する）に関する不理解ということも限定的な自習時間の要因と考えられることから、今後は、在校生オリエンテーション等の機会も活用して理解の徹底を図るなど、改善策を検討する。
3-2-⑤	a	人間社会学科では、教育実習等、専門課程内におかれた実習以外にも、「社会研究実習」という学外でのアクティブな学びの機会を提供する科目を2年次に配置し、長期間にわたって実施してきた。最近では、これらに加え、3-2-⑤のbにおいても記述するように学科内にPBLタスクフォースを設置し、大学の教室内で実施される科目においてもアクティブ・ラーニング導入を奨励し、2021年度からは1年次必修科目「人間と社会B」や1年次選択科目「現代社会論」の一部等でPBLの導入を開始し、現在も継続して実施してきている。 そして、さらに最近では、①量的拡大、②質的向上という縦横2つの方向から、人間社会学科内においてアクティブ・ラーニングの更なる強化を試みている。 ①については、既述したとおり、2024年度から始まった新しいカリキュラムでは「PBL入門」を開講し、教材として『タクナル』（リアセック社作成）を採用し、より明示的にジェネリック・スキルの向上に1年次から取り組むようにした。また、3年次には、それまでに学んだ専門知識・スキルをもちいて課題の発見・解決にチームで取り組むPBL科目を3コースすべてで開講することになっている。 ②については、2021年度に「学長裁量経費による教育改革推進プロジェクト」に申請し、「PBLを含むアクティブ・ラーニング強化とそのインパクト」と題するプロジェクトを実施したが、その終了後も、2023年度には、学科独自の取組として1年次必修科目「人間と社会B」の効果測定を主体性醸成という観点から行なった（報告書は、現在、とりまとめ中である）。 さらに、①②双方にかかわることとして、人間社会学科は、本学地域連携センターとの連携を密にし、大学近隣コミュニティの活性化を目指すKLLP事業に複数ゼミが参加し、ゼミナールでのアクティブ・ラーニング化をさらに図っている。そこでは、外部資金を獲得して、引き続き、主体性醸成の観点でアクティブ・ラーニングの効果評価に取り組むとともに、KLLPへの参画をつうじて学生が行なった取組とその成果をパネル化し、オープンキャンパスで用いる等、学生募集の強化にもつなげていく予定となっている。
	b	人間社会学科では、2020年度、外部コンサルタントのサポートを得ながら、「学科戦略プロジェクト」の一環としてPBLタスクフォースを立ち上げ、現状の把握や今後の取組の検討を行なってきた。現在、このタスクフォース自体の会合は開催されていないが、今日でも、当時に特定した科目ごとの枠組みで複数教員がかかわりながら継続的にアクティブ・ラーニング科目を実施したり、効果評価に取り組んだりしている。 また、人間社会学科は、同じ学部内の他学科と連携し、アクティブ・ラーニングの促進を目的とした教員研修を実施してきている。2023年度も、新任教員2名がそれぞれの専門分野を説明するとともに、その専門を活かしてどのように授業のなかにアクティブ・ラーニングに取り組むのか、アイデア発表が行われた。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	・2024年度 人間社会学科カリキュラム ・2024年度 PBL入門 シラバス
	c	・2024年度 人間社会学科 履修マニュアル (抜粋) ・人間社会学科 新入生向け教務オリエンテーション資料 (2024年4月3日) ・学生による授業評価に対する考察・所見・総括 (人間社会学科) 20240517
3-2-⑤	a	・人間社会学科 PBLコンセプトペーパー (2020年7月27日) ・大学HP記事 (人間と社会B (1回生必修) SDGs取組企画 発表会&表彰式) ・2021年度 教育改革推進プロジェクト報告書 (人間社会学部) 20230508 (提出版) ・2023年度 人間と社会B 主体性調査概要 ・(財団) 研究助成金交付申請書 (大阪大谷大学) 20240327 公開用 抜粋版
	b	・FD報告 (人間社会学部) (2023年3月13日)

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	人間社会学部自己点検・評価委員会（スポーツ健康学科）
------------	----------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／ 〃 ：計画進行中

C：満たしている／ 〃 ：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	a.カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	c.履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか。		
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	令和4(2022)年度にスタートした3コース制が、令和6(2024)年度に3年目を迎える。学生は、1回生時に3つのコースの基礎的な内容を学習した上で、1回生の終わりに、スポーツ指導・スポーツマネジメント・スポーツトレーナーの3コースから自らの所属コースを選択する。その選択は、学生の志望する将来のキャリアとも連動するので、選択に制限をかけていない。幸いなことに、過去2年間のコース選択状況は、3コースがほぼ均等に選択されており、学生は自分の目ざす資格や将来役立つコースを軸に、スポーツ健康学科の専門知識や技能を修得することができている。
	c	全学的なCAP制の取り組みに加え、スポーツ健康学科としては、特に低GPAの学生への指導を、アドバイザーを中心に行っている。また、欠席の多い学生や問題行動を起こした学生については、アドバイザーからの指導はもちろん、当人が部活動に所属する場合は、部活動の顧問からの指導も必要に応じて行っている。これらの指導については、学生カルテに記録し情報共有することで、複数の教員による木目の細かい指導が可能となっている。
3-2-⑤	a	平成30(2018)年度から実施している3回生担当の「スポーツ指導方法演習」が7年目を迎える。実際に子ども達から高齢者まで幅広い対象を指導する機会を提供するこの科目は、学生自身が指導することで、学生にこれまでの学びを振り返り、自身の指導力の足りない点を自覚させる大切な機会となっている。また学科の教員が専門性を活かして実施する公開講座「小学生のための器械運動教室」「中・高校生のためのソフトボール教室」などにおいても、学生が支援者として参加することで、多様な生涯スポーツの現場から学ぶ機会となっている。
	b	人間社会学部では、例年、新しく着任した教員が、実施・工夫しているアクティブ・ラーニングの具体的な取り組みを、学部内で発表している。この機会は、学部の新任教員の専門性を、学部メンバーが知り、新しい視点・方法を学部全体で共有する貴重な機会となっている。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料

<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-2-③	a ・3コース制 (2025大学案内) ・3コース制 (各コース人数)
	c ・20240417スポーツ健康学科会議議事録 (低GPAの学生への指導) ・学生カルテ
3-2-⑤	a ・大学ホームページ「スポーツ指導方法演習」 ・大学ホームページ「公開講座 小学生のための器械運動教室」 ・大学ホームページ「公開講座 中・高校生のためのソフトボール教室」
	b ・FD報告 (人間社会学部) 20230313

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-2-③	a
	c
3-2-⑤	a
	b

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	薬学部自己点検・評価委員会
------------	---------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	a.カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	c.履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか。		
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	令和6年度より施行される改定薬学教育モデル・コアカリキュラムに対応した新カリキュラム・ポリシーと、それに基づく新カリキュラムを検討し、以下の対応をした。カリキュラム・ポリシーにおいては、現行のポリシーが新しいモデル・コアカリキュラムにおいても適合していると判断し、現状のままとした。一方で体系的な教育という点においては、モデル・コアカリキュラムの内容をより効果的に学修できるようにカリキュラムを見直し、科目の追加や統廃合、開講時期・種別（必修／選択）の変更、単位数の変更などを行った。
	c	令和6年度からのカリキュラムの変更に伴い、進級制度の基準も改定した。そのため、カリキュラム変更後もCAP制度の上限を超えることはなく、単位制度の実質は維持されている。
3-2-⑤	a	新規科目の1つとして、分野横断的学習にアクティブ・ラーニングを取り入れた「自然科学演習」を、1年次生を対象に令和5(2023)年度に開講した。
	b	2024年4月より令和4年度改訂版薬学教育モデル・コアカリキュラムの実施されることを受けて、新コアカリの変更内容、本学での今後の対処方法、本学のカリキュラムの現状との調整方法などに関する理解を深めるためにFD研修会を実施した。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-2-③	a	
	c	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-2-③	a ・ R6年度カリキュラムマップ
	c ・ 薬学部授業科目履修規程（第29条の2）（R6. 4月改正）
3-2-⑤	a ・ 「自然科学演習」シラバス（2023-2024年度）
	b ・ 薬学部FD小委員会議事録（R5/04/28）

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-2-③	a
	c
3-2-⑤	a
	b

Ⅱ. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	文学研究科自己点検・評価委員会（国語学国文学専攻）
------------	---------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	a.カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	B	—
	b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	各分野に目配りした十分な科目設定を行っており、点検評価を行いながら、カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施している。
3-2-⑤	a	「演習」科目で院生の主体的な取り組みを促すとともに、「特殊研究」科目で基礎的素養の涵養を図っている。教員の研究調査に基づいた最新の資料に取り組ませる教員もあり、プロジェクト・ベースの学びも提供できている。また主専攻・副専攻制度をすでに導入しており、指導にあたる複数の教員による連携のもと効果的なアクティブ・ラーニングを実施している。
	b	令和元（2019）年度に設置を決定はしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催できていなかった小委員会を今年度中に開催し、教授方法の改善を進めるための検討を行う。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	3つのポリシー一覧・大阪大谷大学大学院パンフレット2024（文学研究科）
3-2-⑤	a	令和2年度文学研究科委員会議事録（R3/02/17）・令和3年度文学研究科委員会議事録（R3/06/23）・令和6年度シラバス「国語学特殊研究A」
	b	令和元年度文学研究科委員会議事録（R1/11/27）

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	文学研究科自己点検・評価委員会（歴史文化学専攻）
------------	--------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

- A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済
B：満たしている／〃：計画進行中
C：満たしている／〃：計画検討中
D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	a.カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	B	—
	b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	各分野に目配りした十分な科目設定を行っており、点検評価を行いながら、カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施している。
3-2-⑤	a	A群科目「歴史文化学研究指導及び演習」で専門的知識と関連資料の適切な扱い方、新しい知見の創造・表現、専門的研究の自律的継続を目的にアクティブ・ラーニングを実施するとともに、B群（「歴史文化学特殊研究Ⅰ・Ⅱ」等）、C群（「歴史文化学外書講読Ⅰ・Ⅱ」等）、D群（「歴史文化学課題研究Ⅰ～Ⅶ」）の各科目群において幅広い専門的知識の習得を図っている。また主専攻・副専攻制度をすでに導入しており、指導にあたる複数の教員による連携のもと効果的なアクティブ・ラーニングを実施している。
	b	令和元（2019）年度に設置を決定はしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催できていなかった小委員会を今年度中に開催し、教授方法の改善を進めるための検討を行う。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	3つのポリシー一覧・大阪大谷大学大学院パンフレット2024（文学研究科）
3-2-⑤	a	令和2年度文学研究科委員会議事録（R3/02/17）・令和3年度文学研究科委員会議事録（R3/06/23）・令和6年度シラバス「歴史文化学研究指導及び演習A」
	b	令和元年度文学研究科委員会議事録（R1/11/27）

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	
3-2-⑤	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-2	教育課程及び教授方法

担当部局（委員会等）	薬学研究科自己点検・評価委員会
------------	-----------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
3-2-③	カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	A	—
	a.カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか。		
3-2-⑤	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	a.アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。		
	教授方法の工夫・開発と効果的な実施	A	—
	b.教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	特になし
3-2-⑤	a	特になし
	b	特になし

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-2-③	a	
3-2-⑤	a	
	b	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	大阪大谷大学大学院薬学研究科設置の趣旨等を記載した書類【抜粋】
	a	R6年度「医療国際比較演習」シラバス
3-2-⑤	b	薬学研究科委員会議事録（2024. 2. 21）

<2025年度>

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-2-③	a	
	a	
3-2-⑤	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	教務部（教務委員会）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。		
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。		
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	A	—
	a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

2 自己点検・評価
<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-3-①	a	特になし
	b	特になし
3-3-②	a	特になし

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-3-①	a	・2023年度後期成績評価の妥当性の検証について（依頼文） ・大阪大谷大学 アセスメントプラン
	b	・2023年度学修行動調査結果 ・2022年度卒業時調査結果
3-3-②	a	・教務委員会議事録（R5/12/13）、ディプロマ・サプリメント

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	教育・学修支援センター（センター運営委員会）
------------	------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A: 満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策: 全て達成済

B: 満たしている／ ” : 計画進行中

C: 満たしている／ ” : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評 価 の 視 点 （ 上 段 ）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	C	—
	a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。		
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。		
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	A	—
	a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	文学部・教育学部・人間社会学部の各学科において、ディプロマ・ポリシーに応じた質的水準（ルーブリック）は定められており、各学年に応じた学修成果を学生にフィードバックできるよう検討を予定している。
	b	IR基幹3調査において、学生の志向、学修実態、成長実感、教育課程や施設等に関する卒業時の満足度等を幅広く調査し、その内容を協議会や学科会議等に報告し、点検評価を行なっている。
3-3-②	a	学修行動調査やPROGの結果をふまえて学生個々の学修指導を各学科で行なうよう依頼しているほか、授業評価アンケートの結果をふまえて、それぞれの授業内容や方法について担当教員が改善計画を提出している。

＜2025年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-3-①	a	なし
	b	協議会議事録(2023/6/5、2023/8/28)
3-3-②	a	大学のWebポータルサイト「Active Academy」「学生による授業評価および施設に関する改善報告」 各学部教授会議事録(2023/5/10) 各学部教授会議事録(2023/7/5)

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	教職教育センター（センター運営会議）
------------	--------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。		
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	B	—
	b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。		
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	A	—
	a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

2 自己点検・評価 <2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-3-①	a	教職教育センターでは、教職課程の学習内容や理解度、教職関連に関する諸活動の点検・評価について履修カルテにより明示している。
	b	履修カルテは、学生自身が各学部のポリシーを踏まえて設置された教職課程の履修や、その他の様々な諸活動を通じて身につけてきた知識・技能を振り返って到達度 5 段階の指標により自己評価をおこない、教職実践演習担当教員による最終学年における履修状況の評価と併せて、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたか確認できるものである。 履修カルテを活用し進路指導や学修指導に役立てることができるよう、2年次から資格登録をする教育学科で先ずは2025年4月の導入することを目指し、運用方法等（科目・オリエンテーション等）について引き続き検討する。
3-3-②	a	教職教育センターでは、教育実習において実習校と実習生の間で発生する様々なトラブルに対応する一方、指導のあり方や対応方法の改善に向けて検討を行っており、その結果をふまえて令和 4(2022)年度から「教育実習に関わる懸案事項が発生した際の解決フロー」を作成している。令和 5(2023)年度は令和4年度の発生事例を踏まえ更新し、教育実習前後のゼミ教員等による学生への指導も含めて、配信する等の体制を整えた。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	履修カルテ作成手順（学生用・教員用）
	b	3-3-①と同様、教職課程委員会 議事録(R6. 03. 06)
3-3-②	a	教職課程委員会議事録(R6. 03. 06)、教育実習に関わる懸案事項が発生した際の解決フロー

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

Ⅱ. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	文学部自己点検・評価委員会（日本語日本文学科）
------------	-------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。		
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。		
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	A	—
	a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

2 自己点検・評価 <2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-3-①	a	アセスメントテストの結果とディプロマ・ポリシーのチェックシートをもとに、各教員が面接を行い、その内容をActive Academy「学生カルテ」に指導記録を残している。
	b	各コースの取得状況と、その学生の就職先の関連を調べ、今後のコース制のあり方の問題を検討した。
3-3-②	a	面談の結果はAcademy「学生カルテ」に指導記録を残して、学科内で共有している。また、GPA1.5未満の学生については、リストを学科会議で回覧する。本学科では、多くの教員がその学生を担当しているので、その場で情報共有ができ、指導に役立っている。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-3-①	a	Active Academy「学生カルテ」の指導記録
	b	学科会議議事録（R6/04/17）
3-3-②	a	Active Academy「学生カルテ」の指導記録、学科会議議事録（R6/04/17）

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	文学部自己点検・評価委員会（歴史文化学科）
------------	-----------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評 価 の 視 点 （ 上 段 ）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。		
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。		
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	A	—
	a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-3-①	a	アセスメントテストを受けた個別面談に先立ち、「アセスメントテストと歴史文化学科ディプロマ・ポリシー（DP）の関連付けチェックシート」を配布し、学生各自が自己の診断結果を確認している。最終学年の4年次には、学修成果の集大成として3年次から取り組んできた卒業論文を完成させ、全員が一人ずつ口頭試問にのぞむ。口頭試問に際しては、専任教員全員がディプロマ・ポリシーを踏まえた上で学修成果に対する評価を行っている。研究成果一覧は、大阪大谷大学歴史文化学会誌『大阪大谷大学 歴史文化研究』に掲載し、特に優れた卒業論文を執筆した学生は、「歴史文化学会」において発表している。
	b	大学全体で行っている学修行動調査、学生生活満足度調査、卒業時アンケート等については、学科の全教員で結果を共有し、IR委員会を中心に改善に向けた点検を行っている。アセスメントテストについては、ゼミナール担当教員（アドバイザー）が結果を把握した上で面談を行い、学生のジェネリックスキルの向上につとめている。同様に、GPA1.5未満の学生や卒業が危ぶまれる学生に対しては、ゼミナール担当教員が個別指導を行っている。
3-3-②	a	アセスメントテストを受けた個別面談の結果や、成績・学生生活に関する相談結果を「Active Academy」の「指導記録」に記入することで、教員間で情報を共有し、指導の改善に資するようにしている。「ゼミナール」等の授業においては、効果的なフィードバックをはかるため、tani-WAやMicrosoft 365を利用して課題を返却し、時には再提出を求めている。この取り組みを通して、教員の方では、指導の際に起こりやすい問題に関する情報を蓄積しつつ、教育方法を改善している。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・2023年度 アセスメントテストとDPの関連付けチェックシート ・2023年度 卒業論文口頭試問実施一覧 ・2023年度 大阪大谷大学歴史文化学会 プログラム ・『大阪大谷大学 歴史文化研究』 ・シラバス「卒業論文」「ゼミナール2A」「ゼミナール2B」
	b	・2023年度 歴史文化学科 学科会議議事録(R5/07/12) ・2023年度 指導記録(学生カルテ)
3-3-②	a	・2023年度 歴史文化学科 学科会議議事録(R5/07/12) ・2023年度 指導記録(学生カルテ) ・「ゼミナール2B」課題の添削結果

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

Ⅱ. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	教育学部自己点検・評価委員会
------------	----------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

- A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済
B：満たしている／〃：計画進行中
C：満たしている／〃：計画検討中
D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評 価 の 視 点 （ 上 段 ）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。		
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	B	—
	b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。		
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	B	—
	a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

2 自己点検・評価
<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-3-①	a	各ゼミ担当者が、学生のアセスメントテストの結果とtani - WAに提出されたDPチェックシートをもとに、教育学部での学位授与のためには、どの項目を伸ばせばよいのか、どのように成長していきたいか等、学部のDPと関連付けて学生自らが考えていくことを重視して面談による指導を行った。面談後に、大学の Web ポータルサイト「Active Academy」の指導記録にその内容を記載している。また、3年次のPROGの結果をふまえ、3年間の成長を確認し、それに基づいて個人指導している。
	b	学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、及び、学修行動調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査については、例年と同様に実施された。その結果を各専攻会議や教授会で意見交換している。学生の回答数が100%に達するよう学生指導に努めたい。
3-3-②	a	教育学科では、教員採用試験合格者のGPAを分析し、学修支援方法の点検、改善に利用している。また、学生の指導記録は全専攻とも大学のWebポータルサイト「Active Academy」の指導記録に統一して記録し、学科内で共有を図るとともに、学修指導の改善に役立てている。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・ Active Academyの指導記録
	b	・ IR委員会による学修行動調査の結果 ・ 2023年度教授会議事録・資料 (R5/5/10、R5/6/7) (アセスメントテスト1回生) ・ 2023年度教授会議事録 (R5/10/18、R5/12/6) (アセスメントテスト3回生)
3-3-②	a	・ Active Academyの指導記録

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

Ⅱ. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

Ⅲ. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	人間社会学部自己点検・評価委員会（人間社会学科）
------------	--------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B : 満たしている／ 〃 : 計画進行中

C : 満たしている／ 〃 : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。		
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。		
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	A	—
	a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

2 自己点検・評価 ＜2024年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	人間社会学科においては、ディプロマ・ポリシーをルーブリック化し、とくに4年間の学びの集大成である「卒業研究」を軸にして活用を図ってきた。具体的には、ゼミナールによっては、4年次の最初で、学生にディプロマ・ポリシーのルーブリックを解説するとともに、(たとえばDP1「報恩感謝の心と幅広い教養」は「十分に満足」「おおむね満足」「努力を要する」のどの段階にあるのか)自己評価させ、その結果によっては、卒業研究にどのように取り組み、ディプロマ・ポリシーをより満たすことができるか、検討するようにしている。 上述の取組は、いくつかのゼミナールが共同で卒論発表会を開催し、指導担当教員以外が学生に質問・コメントすることで、4年間の学びの集大成である卒業研究の質を確保する取組とともに行なわれているが、このような取組をどのように学科内で広げていくかという課題がある。2023年度内に行なわれた学科会議ではより多様な形での卒業研究の質保証を図っていくことになった。引き続き、学科会議等で取り上げ、より多様な形での質保証を探索しながら、多くのゼミナールが参加する学科の取組として定着を図っていく。
	b	人間社会学科においては、「授業評価アンケート」や「新入生調査」「学修行動調査」「卒業時調査」やPROGテスト等、全学的な取組に参加し、学生の学修成果に関する情報収集を行ってきた。また、そこで得られた情報については、学部教授会や学科会議を通して学科教員の間で共有してきている。
3-3-②	a	人間社会学科においては、3-3-①-bで既述したように、さまざまな全学的な取組に参加し、学修の成果や状況について情報収集してきた。とくに「学修行動調査」(すべての年次)やPROGテスト(1年次および3年次)については、こうした調査やテストの結果を今後の学修計画に活用できるよう、その調査の実施及びテストの受験直後、学生には学科で作成したふりかえりワークにLMS上で取り組んでもらい、また、ゼミ担当教員にはそのワークの結果を確認し、必要があれば学生と対話を行い、「講評」を付し、フィードバックとしてもらうようにしている。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・大学HP記事（卒業研究合同発表会を開催しました（岡島ゼミ・中村ゼミ・船本ゼミ）） ・人間社会学科 学科会議 議事録（2024年2月21日）（抜粋）
	b	・人間社会学科 学科会議 議事録（2023年5月24日）（抜粋） ・人間社会学科 学科会議 議事録（2023年9月6日）（抜粋） ・2022年度 卒業時調査の結果と年度間比較報告書【人間社会学科】 ・2023年度 学修行動調査の分析（人間社会学科報告用） ・人間社会学部 教授会 議事概要（2024年4月1日）
3-3-②	a	・2023年度 人間社会学科1回生 PROGの振り返り（フィードバック結果） ・2024年度 人間社会学科1回生 PROG振り返り（tani-WA画面）

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	人間社会学部自己点検・評価委員会（スポーツ健康学科）
------------	----------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

- A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済
B：満たしている／〃：計画進行中
C：満たしている／〃：計画検討中
D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	B	—
	a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。		
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。		
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	A	—
	a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

2 自己点検・評価
<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-3-①	a	スポーツ健康学科では、学生がディプロマ・ポリシーの「実践力」を身につけられるように、「スポーツ指導方法演習」や「健康産業施設等現場実習」等の科目を設けている。これらの科目を通して学生は、実際に指導する側に立つことで、社会で要求されるスキルを知り、卒業までに不足している力を補うことができている。令和6（2024）年度は、4年間の学びの集大成である卒業研究を、学科のディプロマ・ポリシーを踏まえて、ルーブリックを活用して評価することをめざし、担当メンバーを決め、学科原案を検討する作業に入る。
	b	スポーツ健康学科では、スポーツと健康の指導・支援に関わる資格や保健体育の教員免許といった資格の取得状況を把握し、全学的な取り組みである「卒業時調査」、「学修行動調査」、「PROGの結果報告」、「各期低GPA学生データ」等の結果を活用し、学生の学修状況を把握し、指導に活用している。
3-3-②	a	スポーツ健康学科では、3-3-①bの調査結果を活用し、アドバイザーからの指導はもちろん、学生が部活動に所属している場合は、部活顧問からも支援・指導を実施している。特に、低GPA学生への指導は、留年・退学の防止との関連が深いので、指導の結果を学生カルテに残し、教員間の共有している。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料

<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-3-①	a ・ディプロマ・ポリシー（履修マニュアル） ・スポーツ指導方法演習（報告書バスケットボール） ・健康産業施設等現場実習（履修者説明会資料） ・20240312スポーツ健康学科メール会議（ループリック担当メンバー）
	b ・スポーツ健康学科資格（教諭1種免許状(保健体育)課程） ・スポーツ健康学科資格（合格・申請者） ・教授会議事録20230607（卒業時調査の資料含む） ・教授会議事録20230830（学修行動調査の資料含む） ・教授会議事録20230705（PROGの資料含む） ・教授会議事録20240306（低GPA）
3-3-②	a ・学生カルテ

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
3-3-①	a
	b
3-3-②	a

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 3	教育課程
基準項目 3-3	学修成果の点検・評価

担当部局（委員会等）	薬学部自己点検・評価委員会
------------	---------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
3-3-①	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	a. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。		
	三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	A	—
	b. 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか。		
3-3-②	教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	A	—
	a. 学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。		

2 自己点検・評価 <2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
3-3-①	a	2024年度からのディプロマ・ポリシー(DP)については、DP検討小委員会にて見直しを行い、変更した内容が教務委員会および教授会にて承認された。さらに、このDP案が新コアカリにも対応していることを確認した。 DP項目の修得度評価については、1年生はPROGテスト、2-6年生は年次DPレポートにより評価することになった。評価の際の考え方や評価方法について、教務委員会で審議され、教授会にて教員間で共有された。 ルーブリック評価結果を学生毎に一元管理するシステムについては、その運用法も含めた検討を同時に進めている。 なお、ディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果の評価法との関係性を明らかにするために、カリキュラム・ポリシーの評価方法に関する記載を修正している。
	b	プレイスメントテストについては2024年度より実施方法を見直し、年度当初の成績を基に「新入生セミナー」での振り返りを通じて、新入生に学修の目的をより明確に意識させることとした。 PROGテストについては、2023年度より薬学部では5年生での受験も実施され、毎年実施している1年生の結果からの変化と実務実習後の個々の汎用的能力（リテラシー、コンピテンシー）の把握、ならびに配属先の教員による個別指導がなされるようになった。
3-3-②	a	上記、年次DPレポートの評価結果に基づくアドバイザー教員からのコメントは、tani-WAを通じて学生へフィードバックされ、学習指導の改善に利用されている。 また、2024年度より新設された1年次必修科目「新入生セミナー」にて、プレイスメントテスト解説会を実施する方法に改めた。従前は成績を記載した個人カルテを各アドバイザーから担当学生に交付して指導を行っていたが、新しい仕組みでは、解説会の中で個人カルテについて、全新生に統一した指導を行うことができる。また、プレイスメントテストの出題内容と入学後の学習内容との関連を意識することで、テストの振り返りを行う習慣づけと新入生の学習のモチベーションを高めることも期待できる。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	・ 令和5年度第5回薬学部教務委員会議事録(2023/08/23) ・ 令和5年度第11回薬学部教務委員会議事録(2024/02/21)
	b	・ 令和5年度第9回薬学部教務委員会議事録(2023/12/20) ・ 令和5年度第12回薬学部教務委員会議事録(2024/03/13)
3-3-②	a	・ 令和5年度第12回薬学部教務委員会議事録(2024/03/13)

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
3-3-①	a	
	b	
3-3-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 4	教員・職員
基準項目 4-2	教員の配置・職能開発等

担当部局（委員会等）	教育・学修支援センター（センター運営委員会）
------------	------------------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
4-2-②	FD(Faculty Development)をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施 a. FD、その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っているか。	A	—
			—
			—

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
4-2-②	a	協議会で承認がなされたFD活動方針に基づき、FD部会では、授業評価アンケートや授業公開、講演会など、全学的なFD活動について議論し実施をしている。また、各学部におけるFD活動についても取り組みを促し、全学に向けた活動報告を年度末に実施している。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
4-2-②	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
4-2-②	a	協議会議事録（2023/5/8、2024/3/11） FD講演会案内（2024/2/7） FD講演会案内（2024/3/13）

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
4-2-②	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 4	教員・職員
基準項目 4-3	職員の研修

担当部局（委員会等）	本部総務部
------------	-------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

- A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済
B：満たしている／〃：計画進行中
C：満たしている／〃：計画検討中
D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
4-3-①	SD（Staff Development）をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取り組み a. 職員の資質・能力向上のための研修などの組織的な実施とその見直しを行っているか。	C	—

2 自己点検・評価
<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
4-3-①	a	「スタッフ・ディベロップメント推進規程」等の作成には及んでいないが、それに向けた情報収集として他大学の事例を調査。「学校法人二松学舎」の「SDへの取り組み」事例や、「帝塚山学園」の「研修制度の構築」事例を入手し、それをベースに本学園における取り組みを検討する端緒とした。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
4-3-①	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
4-3-①	a	「学校法人二松学舎 SDについて」「帝塚山学園 研修制度の構築」

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
4-3-①	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 4	教員・職員
基準項目 4-4	研究支援

担当部局（委員会等）	大学事務局《総務課》
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B : 満たしている／　　　　　〃　　　　　：計画進行中

C : 満たしている／ 〃 : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
4-4-①	研究環境の整備と適切な運営・管理	A	—
	a. 快適な研究環境を整備し、有効に活用しているか。		
4-4-②	研究倫理の確立と厳正な運用	A	—
	a. 研究倫理に関する規制を整備し、厳正に運用しているか。		
4-4-③	研究活動への資源の配分	C	—
	a. 研究活動への資源配分に関する規制を整備し、設備などの物的支援とRA（Research Assistant）などの人的支援を行っているか。		

2 自己点検・評価

＜2024年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
4-4-①	a	文部科学省等のガイドラインや方針にあわせ、諸規程等の整備を継続する。
4-4-②	a	文部科学省のガイドラインや方針にあわせ、研究倫理等の啓発他適正な研究活動並びに研究費執行に資する業務執行を継続する。
4-4-③	a	学内研究費（個人研究費・特別研究費・共同研究費）のうち採択制研究費については、外部資金の採択状況の他、一定の審査基準を設定しているものの、外部評価で提言のあった評価システム構築までには至っていないことの他、教員の年齢構成バランスの検討については大学全体としての調整が必要となる。

＜2025年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
4-4-①	a	
4-4-②	a	
4-4-③	a	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
4-4-①	a	薬学部実験研究棟（15号館）の主な設備 大阪大谷大学薬学部・大阪市立大学医学部サテライト研究室の使用に関するガイドライン 大阪大谷大学知的財産ポリシー 大阪大谷大学発明委員会規程 大阪大谷大学利益相反マネジメント規程 大阪大谷大学利益相反マネジメント委員会規程
4-4-②	a	大阪大谷大学研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程 平成30年度研究不正防止に係る講演会実施要項 大阪大谷大学遺伝子組換え実験安全管理規程 大阪大谷大学薬学部の生命倫理委員会規程 大阪大谷大学文学部・教育学部・人間社会学部研究倫理委員会規程 研究費の内訳
4-4-③	a	大阪大谷大学特別研究費助成規程 大阪大谷大学特別研究費助成細則 大阪大谷大学薬学部共同研究費助成規程 大阪大谷大学薬学部共同研究費助成細則 大阪大谷大学リサーチ・アシスタントに関する規程

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
4-4-①	a	
4-4-②	a	
4-4-③	a	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 6	内部質保証
基準項目 6-1	内部質保証の組織体制

担当部局（委員会等）	学長室（学長室会議）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／　　　　　〃　　　　　：計画進行中

C : 満たしている／ 〃 : 計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
6-1-①	内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	A	—
	a. 内部質保証に関する全学的な方針を明示しているか。		
	内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	A	—
	b. 内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。		
	内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	A	—
	c. 内部質保証のための責任体制が明確になっているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
6-1-①	a	特になし
	b	特になし
	c	特になし

＜2025年度＞

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
6-1-④	a	
	b	
	c	

3 エビデンス資料
<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-1-①	a	大学ホームページ「大学評価」
	b	大学ホームページ「大学評価」
	c	大学ホームページ「大学評価」

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称	
6-1-①	a	
	b	
	c	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 6	内部質保証
基準項目 6-2	内部質保証のための自己点検・評価

担当部局（委員会等）	学長室（学長室会議）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B : 満たしている／ 〃 : 計画進行中

C : 満たしている／　　　　　〃　　　　　：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）		判定
6-2-①	内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有	A	—
	a. 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価をどのように行っているか。		
	内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有	A	—
	b. エビデンスに基づく、自己点検・評価を定期的実施しているか。		
	内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有	A	—
c. 自己点検・評価の結果を学内で共有し、社会へ公表しているか。			
6-2-②	IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析	B	—
	a. 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行える体制を整備しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
6-2-①	a	特になし
	b	特になし
	c	特になし
6-2-②	a	アセスメントプランに基づき、機関レベルにおける点検・評価は、推進委員会等で検証を行っている。教育課程（学部・学科）レベルにおける点検・評価は学部・学科が行うことを基本とし、入学次調査・学修行動調査・卒業時調査についてはIR委員会においても行われているが、一部（課外活動状況）は行われていない。科目レベルにおける点検・評価は、教員（授業評価アンケート）、学部・学科（授業評価アンケート・シラバスのチェック）、協議会（成績評価の妥当性）がそれぞれ行なっている。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 (A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください)
6-2-①	a	
	b	
	c	
6-2-②	a	

3 エビデンス資料

<2024年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
6-2-①	a 平成30年度第4回大学自己点検・評価委員会議事録 (H30/10/22) 平成30年度第9回大学自己点検・評価委員会議事録 (H31/03/25) 令和4年度第1回内部質保証推進委員会議事録 (R4/04/18) 大阪大谷大学内部質保証に関する方針 大阪大谷大学 内部質保証システム体系図
	b 大阪大谷大学内部質保証に関する規程 令和6年度第1回内部質保証推進委員会議事録 (R6/04/20) 大阪大谷大学外部評価委員会規程 大阪大谷大学内部質保証に関する規程 外部評価報告書 (R6.03)
	c 大学ホームページ「大学評価」
6-2-②	a 自己点検評価書作成依頼メール (R5/04/25) 大阪大谷大学教育・学修支援センター規程 大阪大谷大学IR委員会規程 大阪大谷大学 内部質保証システム体系図 IR委員会議事録 (2023/4/26、2023/5/11、2023/8/24) 大阪大谷大学・大阪大谷大学大学院FD報告書 2020年度・2021年度 大学のWebポータルサイト「Active Academy」「学生による授業評価および施設に関する改善報告」 協議会議事録 (2023/5/8、2023/10/30)

<2025年度>

No./留意点	エビデンス資料の名称
6-2-①	a
	b
	c
6-2-②	a

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 *検討内容、実行時期を記述する。
検討内容： 実行開始： 年 月

自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準 6	内部質保証
基準項目 6-3	内部質保証の機能性

担当部局（委員会等）	学長室（学長室会議）
------------	------------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 <自己判定>

自己判定の留意点に沿って、「自己評価」欄に「A・B・C・D」による4段階で判定結果を記入してください。

A：満たしている／前年度等に掲げた改善・向上方策：全て達成済

B：満たしている／〃：計画進行中

C：満たしている／〃：計画検討中

D：満たしていない／認証評価で「不適合」、もしくは「改善点」として指摘される可能性が高い

No.	評価の視点（上段）	2024年度	2025年度
		自己評価	自己評価
	自己判定の留意点（下段）	判定	判定
6-3-①	内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体の PDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性	A	—
	a. 三つのポリシーを起点とした内部質保証を行い、その結果を教育の改善・向上に反映しているか。		
	内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体の PDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性	C	—
	b. 自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果を踏まえた中長期的な計画に基づき、大学運営の改善・向上のために内部質保証の仕組みが機能しているか。		

2 自己点検・評価

<2024年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
6-3-①	a	特になし
	b	本学の様々な取り組みが、学生の教育活動や大学運営の改善・向上にどのように影響したのか、「学生代表者会議」を活用するなど、その検証方法について検討する。

<2025年度>

No.	留意点	事実説明や改善・向上方策など、特筆すべき事項があれば記入してください。 （A判定以外の場合は、事実説明及び次年度等に向けた改善・向上方策を必ず記入してください）
6-3-①	a	
	b	

3 エビデンス資料
＜2024年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
6-3-①	a	大阪大谷大学PDCAサイクル図 「学長からの改善要求」への対応状況（令和5年度分）
	b	「学長からの改善要求」への対応状況（令和5年度分）

＜2025年度＞

No./留意点		エビデンス資料の名称
6-3-①	a	
	b	

II. 学長からの改善要求

学長からの改善要求

III. 学長からの改善要求に対する取組計画

学長からの改善要求に対する取組計画 * 検討内容、実行時期を記述する。
検討内容：
実行開始： 年 月